

粉を動かす各種回交の協議会 統一回交に決起せよ

全市大の学生、院生、教職員諸君ノ

昨日の予備討論において、大田当局は、「全大ナシニハハ、」に言及し「元から除外する、」學外有資格医連は会場へはいつてはならない」といった、明らかに我々に協力を認めさせるような条件を、我々が徹底的に粉砕する由き、おろろくをえなくなったのである。それは彼らの物ゆかりのよさではなく、尺の輪を升てものを言つていった、教員者、研究者などは縁遠い、まさに管理者としての態度以外の何物でもないだろう。この当局を「しようがない」といった言葉を見送らすことは絶対できないであらう。彼らは話さず、思い込んで考えていない。千、二千名の学生が、この回交に結集する、と欠く想をいれるにも拘らず、設備も全無な部室でやるというたぶら、ニくこ水っぽいの誠意もないのだ。

こ水は「二月以來」まとして言つて来た「話し合いの内容を物語つていゝおたうつ。すなわち、彼らは林田隊導入の前日まで話し合いを云々するといつた、二面性をもつて生活しているのだ。渡瀬、トミ、ル協議の裏には、國家權力と力をもつところの反動路線がもつた。いやでも、反動路線（ファシシヨ体制）こそ彼の性質ではないだろうか。彼らはこれを、我々に感づかれぬように、我々の要求する回交をいじめるをえなくなつたのである。こ水、彼は我々の主張を認めないかぎり、彼らのペースにまきこまれ、ととモデル大学に行動するのだ、と云うことには、しっかりと認識したおぼはならない。そして、こ水の主張は、我々の主張と、一致するところがあるが故に、これに合わせる我々の闘いは永続的なものにならざるをえない。彼らが更に改善必要性を認めるならば、こ水回交に出て来なければならぬ。こ水は、こ水、こ水の回交そのものが、この重要な改革そのものである。こ水、こ水、こ水の改革案によつて、先進的三三部隊と後進部隊とを分断し、その後は二重して「だんまり」「盾押し」によつて、我々の苦勞、抗議を圧殺した末に、校長、校役会が我々と対峙の立場に立つて、理論、説理だけの管理者、媒介者という前提なしで、我々と対峙せしめようならば、それは村我々を自指す改革への大きな礎石となるであらうこ水とは明らかである。

全この学友諸君、我々と共に、当局の改革に敵対する姿勢を追求し、反動渡瀬体制打倒の突破口を切り開き、我々のうにより、改革を貫徹しようではないか。君は光を求めると同時に光を創り出さねばならないのだ。④こ水、一方面的授業再開を行つた、大学当局の犯罪性、欺瞞性、自己批判を獲得することは、いかん、

26日(水)
PM 1:00
講堂

団交貫徹
渡瀬体制打倒
市大斗争勝利
商ソヴエト創出

市学部ストライキ